



第28号
発行
石川県剣道連盟
広報委員会



新役員
の抱負・課題

県剣道連盟理事長 北野 優

県剣道連盟は、四月の理事会において平成二十三・二十四年度役員を決定、新執行部がスタートいたしました。まずもって、これまで永年に亘り県剣道連盟の発展のためご尽力いただきました田畑武正副会長、大橋靖弘副会長、枘谷敏雄理事長には心から感謝申し上げますとともに、今後とも新執行部に対し、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。

また、新執行部に留任していただいた穴田会長、松本副会長には、引き続き新執行部による県剣道連盟の舵取りをお願いしたいと思っております。

県剣道連盟の今後の課題として、一つ目に急激な社会の変化の中で、

戦後第二の剣道ブームといわれ

る昭和五十年代から平成の初め頃までは、県内全域において少年剣道教室が大変盛況で、剣道に取り組む幼少年の数も多く熱気にあふれていました。ところが最近では、少年の大会のみならず、中学・高校にいたるまで団体戦のチーム編成が組めない状況が散見されるようになっております。このことに、

剣友の多くが将来の剣道普及発展に危惧を抱いているのではないのでしょうか。この現象の背景には、少子化に加え、子供たちの興味が人気のあるスポーツに偏るなど選択肢が増えたことが原因として挙げられます。決して剣道離れから

朗報として、文部科学省は、平

成二十四年度から中学校における「武道」の必修化を採用しました。

その目的には、中学生に日本の伝統文化を体験させ、国を愛する心を育てるとともに立派な人間を育成するという願いが込められていると思えます。剣道は、日本人独特の文化を多く内包しています。武道必修化で伝統ある剣道を体験した中学生が一人でも多く継続してもらうために、県剣道普及委員会を中心に頑張っていきたいと思えます。

課題の二つ目としては、競技力の向上が挙げられます。

剣道の強化については、県剣道連強化委員会及び中体連・高体連が主体となり懸命に取り組んでおります。しかしながら、平成三年の石川県体での総合優勝の後、平成六年の愛知国体第二部での入賞を最後に点数を獲得できておりません。しかし、少年の部・成年の部ともにあと一步のところまで頑張っておりますので、県剣道界が一体となって総合力強化に当たっていきたいと思えます。

剣道を修行する上で人それぞれに目標があると思えます。「試合に勝つこと」「昇段すること」

「人間を磨くこと」等、さまざまであります。

特に、剣友の皆様が挑戦する昇段審査では、うれしい結果が出ております。全日本剣道連盟の六段・七段・八段一次審査を含めた合格率で石川県が全国のトップクラスにあたるということがあります。それは昇段された方々の努力もさることながら、強化委員会の指導による強化練習の成果ではないかと思えます。

三つ目に挙げられるのが、生涯剣道についてであります。

剣道は生涯スポーツを代表するすばらしい競技だと思えます。剣道は、高齢になっても若い人達と一緒に稽古ができます。定年退職してから自分を高めようと再び稽古を始められる方々が多くおられ、高齢化社会何するものぞと張り切っております。

昨年、石川県羽咋市で開催された第二十三回全国健康福祉祭いしかわ大会「ねんりんピック石川二〇一〇」において、本県から出場した三チームは、優勝、準優勝、第三位と上位を独占する快挙を成し遂げられました。

出場された選手の活躍は剣道関

係者を始め県民に深い感動を与えました。

本年も昨年に引き続き、熊本県菊池市で開催される同大会に向けて再び厳しい稽古を重ねております。出場される選手の活躍を剣友一同祈念いたしております。

今後、益々高齢化社会が続くと思いますが、剣友の皆様は、正しい剣道を求めて八十歳・九十歳でも稽古ができる生涯剣道を目標に頑張っていこうではありませんか。おわりに、新執行部は穴田会長、松本副会長以外は、若輩者で微力ではありますが、県剣道連盟発展のために一丸となつて汗をかいていこうと決意を新たにしておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

◎剣道連盟役員

会長	穴田 龍太郎
副会長	松本 要
〃	山下 和廣
〃	末平 佑二
〃	南 信廣
理事長	北野 優
副理事長	中村 康徳
〃	田上 雅治
〃	倉 久廣
事務局長	北野 優

剣道審査会に向けて

剣道教士八段 山下 和廣

剣道の奨励と発展に役立たせるための審査会が、全日本剣道連盟の剣道称号・段位審査規則によつて実施されます。段位は「剣道の

技術的力量(精神的要素を含む)」、称号は「これに加えて指導力や、識見などを備えた剣道人の完成度を示す」ものです。規則には各段位の付与基準が示されており、これらに該当するものに与えられます。級審査と初段から五段までの審査は加盟団体に任されておりますが、六段、七段、八段については中央審査といわれる全国統一基準で実施されます。中央審査の後、『剣窓』に合格者とともに実技と形の寸評が載っております。読まれていると思いますが、次のような注意が記載されています。

いない、残心がない、先生方にきちんと習っているのか?ただ修行年数が来たから受審?等、審査員は何か合格してほしい気持ちで、将来の可能性まで見ていると聞いています。

審査では有効打突を打たなければ合格はできないと思います。審査段位によつて程度は違いますが、全日本剣道連盟の剣道試合・審判規則にある有効打突とは、充実した氣勢、適正な姿勢、竹刀の打突部で打突部位を、刃筋正しく打突し、残心あるものという「要件」と、機会・間合・手の内・体捌き・強さと冴えという「要素」を満たさなければいけません。

では修行していく中で何を修練すればよいのか。まず剣道の理念、剣道修練の心構え、剣道指導の心構え、この三つをよく熟知し理解すること。剣道とは理法(心法・身法・刀法)を修練する。剣道を正しく真剣に学ぶこと、礼法、竹刀の取り扱い方、生涯剣道についてよく理解して稽古することです。剣道は竹刀を使って有効打突を打ち合う競技であるから、竹刀の握り方で要素にある手の内が正しくないや竹刀操作が上手く出来ま

せん。例えば重い1kgの素振り用木刀の重みを感じながら振ることにより手の内と刃筋を学ぶことができます。左右の手の内は、小指、薬指で握り、中指は締めず弛めず、人差し指と親指は軽く添えるだけとし、掌(たなごころ)で支えることが基本です。竹刀の振り方は、肩を支点とし上から下、斜め45度、突きの直進が基本ですからこれをしっかりと身につけること。

剣道では、打突するまでの過程を大事にしなくてはなりません。よく攻めて崩して相手を引き出す、居つかず、引かす等で攻め勝つた者が打つ権利があるといわれる所以です。一足一刀の間合から一拍子で、気剣体一致の有効打突を打つには、構えたとき左足裏の湧泉を感じ、膝裏のひかがみは張り過ぎず弛めず余裕を持たせ何時でも打てる踏み切り足にしておくことが大事です。最高段位に求められているものは、剣道の基本が出来ていることと、攻め崩しで攻め勝つて機会を捉え相手を引き出し、相手が打とうと心を動かす「う」のところが打つことが出来るようにしてほしいです。最高段位の受審者は上手に懸かる稽古を半年に少なくとも

100人以上にお願いすべきだと思います。ぜひ修練し立会い相手を上手く遣うことが出来るようになってほしいものです。

他には剣道着、袴、防具の着装で、袴のすその高さは後ろが少し上がっていることや、紐類の長さや結び方も気をつけたいものです。

気合については、相手の気合に負けないような大きな声を出してほしいです。気合にもいろいろありますが、見苦しいものは止めたほうが無難でしょう。例えば、「おりゃあ」、「さあさあ」、「ほいほい」、「さあ来い」等は止めたほうがよいです。また、打突部位ははっきりと部位を発声することと、打突と同時にすることも大切です。日本剣道形も日頃から修練して

おくことが大事です。解説書をよく熟知し、要点が入っているかの確認と、上位者か先生方に見てもらうことが大事だと思います。高段位に合格しても元立ちとしての稽古が出来ないようではいけません。その段位に相応しい剣道をしてほしいものです。日頃自分自身の剣道を反省しながら書きました。剣友のさらなる精進と努力を切望します。



居合道八段拝受に思う

居合道教士八段 河西 洋治

臥薪嘗胆 人は目標を持ってこそその意気込みや闘争心が身体から湧き上がってくるもの。そして、目指す方向に進んで行く、あるいは導かれて行くものだと思います。もちろん、その過程は決して楽なものではなく、むしろ苦悩、悲壮に近いものでしょう。

私は居合道を始めて四十年。八段挑戦は平成十四年から始まりました。習い始めから八段を目標にしていた訳でもなく、成り行きが自分を少しずつ目覚めさせて、八段挑戦の方向に舵を向けて行ったように思います。

七段取得後八年程過ぎた頃から、八段を目指す周囲の仲間や、八段を自然と意識するようになり、自分としてもこの道が続ける以上は八段を目標として決めたのです。八段昇段は容易なものではない事は聞いておりましたので、挑戦が始まった頃の二回ほどは、会場の下調べと雰囲気の確認程度の思いでした。今、当時の心境を考えると、安易に審査に合格したいと

の思いだけで、心の準備や目標を目指す真剣味がまったく欠けていたように思います。

挑戦の回を重ねるごとに八段が益々遠くなって行くような気がし、それに併せて挑戦に対する意欲が薄れていくような思いに駆られたものでした。しかし、毎年京都武道センターの審査会場の張り詰めた雰囲気につれて感じたことは、多くの挑戦者が自分を試す為前向きに何回も八段に挑戦している謙虚でひた向きの姿を拝見し、自分もここで挫折するわけにはいかないと思いに言い聞かせ、己を奮い立たせたものでした。

ここ三年程前から、武者修行ともいべき自分の力量を試す為の県外遠征にも率先して出かけ、多くの全国の先生からも指摘を頂くようになり近年ようやく技を通して広がる世界の感触を感じるようになったのです。

そして、今年八回目の挑戦で大願成就。ようやく目的を果たせました。『継続は力なり』どんなに

辛くともあきらめず続けること。人生訓でよく使われ耳にもする言葉ですが、私は六十四才にしてこの言葉の意味を体感出来たような気がします。

今回の成果も決して自分だけの力で達成されるものでないことも学びました。

良き先生に出会い、日頃から叱咤激励の中、充分稽古が出来る道場も提供され、また良き剣友にも私は恵まれました。しかし、社会に出て民間企業に勤めた私は、仕事との両立が常に課題でした。好きであったがゆえに、私はあらゆる調整を取りながら剣との関わりを持ち続けてきました。

居合道が続ける会員にも同様の問題を抱えておられる方も多いと思いますが、それぞれの立場を理解し、日本古来の伝統文化を受け継いで行ってもらいたいと願いつつ、私もその発展に微力を注いで行きたいと思っております。

『居合道は、剣の理法の修練による人間形成の道である』 恩師 武田清房先生が日頃から言われる「関係する書物をよく読むこと。そして研究せよ」を胸に秘めながら。

守・破・離

居合道四段 奥 陽一

武道に限らず広く使われる教えではあるが、この言葉を初めて使ったのは能で有名な観阿弥、世阿弥の親子であったとされている。

現在においてはその道を極める段階を示す例えとして定着した教えではあるが、古流居合の形の修練にも当てはめると誠に合点のいく教えである。

守とは、ひたすら師の教えを守り学ぶ。

破とは、教えを守りながらも自分の工夫を重ねて教えには無い事も試してみる。

離とは、自由に、自然に、一切のこだわりを捨てて自らの境地に至る、とある。しかし、単純にこの教えを古流居合に当てはめる前に、居合における形について今一度考え直す必要があると思は思う。居合における形とは何か？ご存じであると思うが、仮想敵を想定し、一人稽古にて見えない敵を制するという事である。しかし、この想定という言葉を取り違えると全く武術的な道から外れてしまう

のではなからうか。形は実戦の為のシミュレーションではなく、その流派における定規の様な物を体に造るのが目的ではなからうか？

確かに初心者においては想定に基づき敵のイメージを造り、形を理解するのが望ましいだろう。しかし、あくまでも初心者段階の話であり、稽古を長年続けるにあたり、この想定に縛られ続けると、想定に矛盾しない動きを求めることが目的になりがちになってしまう。こうした形は、あくまでも想定、そこに本当の敵は居ないのである。一人稽古故に自分の都合の良い様に敵を見て、切ったとか切らないとかを語るの、立てないのに矢を射るのと同じ事である。外れはしないが当たってもない。

大事なのは、何故この形はこの動きを求めなのか、この動きの意味は何かという事を稽古に求めなければいけない、ということである。その中で流派の理合という定規を体の中に造るのである。

これが古流居合における守である。私は考える。では、破とは何か。師の教えを守り、体の中に流派の定規を造った者は、その定規

を使って違う線を引く事を求めなくてはいけない。今までは師の教えを守り、定規で真一文字に鉛筆にて線を引いていたとする。しかし、ある日、定規に沿って毛筆にて線を引いてみる。しかも縦に。

その線を見て同門の弟子が言う。「あれは我が流派と違う事をしてる。我が流派は鉛筆で書いた真一文字の美しい線である。」と。しかし、私が考えるに、これがマジックで書こうがボールペンで書こうが、あるいは、斜めの線であってもその流派の正しい定規に沿って書いた線であれば間違いではないと思う。大切なのは理合に則った定規に沿ってという事で、筆の種類や色の違いは問題ではないのである。それが見えない者はその定規が体にない者なのである。こうやって定規を使いあらゆる方向にいろんな筆で線を引くのが破であると思う。

では離とは？

ある日、定規に沿っていろんな線を書いていたのだが、直線を定規を使わないで書ける事に気付く。それが出来ると曲線も破線も書ける様になる。まさしく無限に、いろんなパターンの線を、い

ろんな筆で。正しくフリーハンドで線を書くのである。自由に、何にも捕らわれずに。これが離である。

何度も言うが形の想定を仮取り違えてはいけない。想定は仮の約束事ではないのである。敵は一人ではないかもしれない。屋内なのか屋外なのか、昼なのか夜なのか、晴れなのか雨なのか、もしかしたら身に一切の寸鉄も帯びていない状態かもしれない。そう考えると、技そのものに対しての理解の仕方が大きく変わってくると思う。そうやって形や技を理解し、守で師の教えの通りに流派の定規を体に造り、破で様々な線を書く。そして離で自ら自由な線を引く。まだ守にも至っていない私ではあるがこういう稽古を目指したいと日々思うところである。





〔県内大会記録〕

◎県高校新人大会

11月11〜13日 小松桜木体育館
男子団体 羽咋 3―1 金市工
優勝 羽咋

②金市工 ③泉丘、金沢

女子団体 星稜 3―1 羽咋
優勝 星稜

②羽咋 ③金沢、桜丘
男子個人優勝 松田成太(金市工)

②中村 ③安東、坂口
女子個人優勝 森田結衣(星稜)

◎県スポーツ少年団剣道交流大会

12月12日 いしかわ総合SC
団体 優勝 七尾市教室

②森本 ③宇ノ気、游神館

小4男優勝 坂上智暉(辰口)

②供田 ③山田、伊賀
小5男優勝 局師悠汰(宇ノ気)

②四郎丸 ③宮本、山名田
小6男優勝 高見将吾(アカシア)

②今村 ③中越、表
小学女優勝 金山結衣(七尾)

②高木 ③横井、中
中学男優勝 畠中 徹(邑知)

②華井 ③南、加藤
中学女優勝 島田彩加(大崎)

②長原 ③山下、濱田
1月10日 河北台健民体育館
団体優勝 新化館

◎第32回加賀能登少年剣道大会

◎第19回松本旗県高校選抜大会

1月23日 県立武道館
男子団体 羽咋 3―2 泉丘
優勝 羽咋 ②泉丘 ③桜丘、県工

女子団体 星稜 4―0 金沢

◎第44回新春森本剣道大会

2月6日 森本体育館
団体 新化館 ②―2 加賀剣友会
優勝 新化館 ②加賀剣友会

③金沢刑務所、金市工OB会
個人優勝 佐藤博之(北陸総合警備)

②中村 ③田中、藤田

◎第59回全日本都道府県予選

2月13日 県立武道館
先鋒 柘田拓真(羽咋高)

次鋒 土谷有輝(国士館大)

五将 佐藤博之(北陸総合警備)

中堅 本吉秀充(高松中教)

三将 中村直紀(県警機動隊)

副将 塩野克幸(金沢刑務所)

大将 宇波和彦(向陽高教)

2月19日 宇ノ気体育館
男子団体優勝 津幡中

②羽咋 ③宇ノ気、森本
女子団体優勝 羽咋中

②宇ノ気 ③松任、邑知
男子個人優勝 鍋谷魁成(宇ノ気)

②南 ③華井、加藤
女子個人優勝 島田彩加(宇ノ気)

◎第48回県居合道大会

4月3日 県立武道館
六段最優秀 作田剛也(県武)

五段最優秀 中村光成(安原)

四段最優秀 二木有紀江(小松)

参段最優秀 源 美奈子(森本)

二段最優秀 ベックフォード

初段最優秀 金子恭子(県武)

段外最優秀 橘 民子(無名塾)

4月17日 県立武道館
決勝 羽咋郡市 4―3 白山市

優勝 羽咋郡市

②白山市 ③金沢市、鹿島郡

◎ゆうりんピック石川大会

5月18日 県立武道館
65歳未満 優勝 木村正仁

②米林 ③中村、稻垣

65〜70歳 優勝 土田敏勝

②伊賀 ③永原、林

70歳以上 優勝 組橋貞夫

②大橋 ③押田、安原

5月21日 能登青少年交流の家
先鋒 上原智光(東和中教)

次鋒 中井秀人(御祓中教)

◎第45回勤労者春季大会

5月29日 県立武道館
団体優勝 北陸総合警備A

男子個人優勝 佐藤博之(北陸警備)

②田中 ③竹内、松井

女子個人優勝 藤田涼香(一文字会)

②山路 ③四柳、源

6月2〜4日 羽咋体育館
男子団体 羽咋 3―2 桜丘

優勝 羽咋 ②桜丘 ③星稜、金市工

女子団体 星稜 2―1 羽咋

優勝 星稜 ②羽咋 ③金沢、桜丘

男子個人優勝 西谷(羽咋) ②柘田

女子個人優勝 森田(星稜) ②鎌倉

6月18〜19日 羽咋体育館
男子団体優勝 羽咋中

女子団体優勝 朝日中

男子個人優勝 長谷部(邑知)

②高西 凌

女子個人優勝 北江(邑知) ②高原

6月18〜20日 松任総合体育館
男子団体優勝 宇ノ気中

女子団体優勝 宇ノ気中

男子個人優勝 喜多(森本) ②村西

◎加賀地区中学校剣道大会

6月18〜20日 松任総合体育館
男子団体優勝 宇ノ気中

女子団体優勝 宇ノ気中

男子個人優勝 喜多(森本) ②村西

女子個人優勝 北川(内灘) ②島田

6月25日 県立武道館
小学生の部優勝 金沢市A

中学生の部優勝 河北郡市B

6月26日 県立武道館
優勝 滝下彩乃(金沢高教)

◎第50回全日本女子選手権県予選

6月26日 県立武道館

優勝 滝下彩乃(金沢高教)

◎第6回都市対抗少年剣道大会

6月25日 県立武道館

小学生の部優勝 金沢市A

中学生の部優勝 河北郡市B

6月26日 県立武道館

優勝 滝下彩乃(金沢高教)

◎第3回都道府県女子県予選

5月22日 県立武道館

中堅 山路佳奈(団体職員)
副将 千葉博美(参天製薬)

◎第3回都道府県女子県予選

5月22日 県立武道館

団体優勝 一文字会

5月22日 県立武道館

中堅 山路佳奈(団体職員)

副将 千葉博美(参天製薬)

5月22日 県立武道館

中堅 山路佳奈(団体職員)

副将 千葉博美(参天製薬)

5月22日 県立武道館

中堅 山路佳奈(団体職員)

副将 千葉博美(参天製薬)

5月22日 県立武道館

中堅 山路佳奈(団体職員)

副将 千葉博美(参天製薬)

5月22日 県立武道館

中堅 山路佳奈(団体職員)

副将 千葉博美(参天製薬)

〔全国大会・県外等の記録〕

◎第65回国民体育大会

10月2～4日 館山運動公園
〔少年女子〕

一回戦 大阪 3―2 石川
先鋒 笹井 一コ 山本

中堅 長田 メ―メコ 森田
大北 コ― 越野

大将 北山 コ― 宮本
大將 大北 メ― 澤田

一回戦 島根 2―3 石川
先鋒 上田 メ― 篠井

中堅 恩田 一コ 星野
森脇 コ― 杉本

大将 小松 一メ 山田
釜田 一コ 北野

二回戦 石川 2―3 熊本
先鋒 篠井 メ― 竹本

中堅 星野 一ド 古澤
杉本 一メメ 益田

大将 山田 メ― 宮上
北野 一メメ 亀井

◎第45回全日本居合道大会

10月23日 新潟市東総合SC

五段の部 中村 1―2 山崎 (愛知)
六段の部 作田 1―2 中川 (山形)

七段の部 松原 0―3 永井 (栃木)

◎第56回全日本学生剣道優勝大会

10月31日 大阪府立体育館

金沢大学 1―3 関西大学
全日本剣道選手権大会

11月3日 日本武道館

中村 一メ 寺本 (大阪)
◎第29回全日本女子学生優勝大会
11月14日 春日井市総合体育館

金沢大学 2―3 浜松大学
星稜大学 1―3 明治大学

◎第16回凌雲館居合道演武大会

11月14日 富山市2000年体育館

七段の部 最優秀演武 河西洋治
五段の部 優勝 中村光成 (安原)

◎庄川清流杯北信越高校新人大会

2月5～6日 砺波市庄川体育館
男子団体決勝 新潟一 2―1 羽咋
女子団体決勝 星稜 ①―1 長野商

◎第10回能登青少年家所長杯中

3月25～27日 羽咋体育館
男子団体優勝 羽咋中
② 森本 ③ 城南
女子団体

◎第59回全日本都道府県対抗

4月29日 大阪市中央体育館
二回戦 広島 2―3 石川
先鋒 向井 一メツ 柘田

中堅 鴨宮 一コ 土谷
有場 一コ 佐藤

中堅 田中 一コ 本吉
小林 コ― 中村

大将 河内 メ― 塩野
森 一コ 宇波

三回戦 千葉 4―1 石川
先鋒 千葉 コ― 柘田

中堅 小松 一メ 土谷
関澤 一メ 佐藤

中堅 齋藤 メコ― 本吉
南 一メ 塩野

大将 重松 ツメド 宇波

◎第16回新化旗全国選抜中学大会

5月3～4日 河北台健民体育館

男子団体 宇ノ氣中 ベスト8
◎第21回若獅子旗中学剣道大会

5月14～15日 松任運動公園
男子団体 ② 津幡中
女子団体 ③ 宇ノ氣中

男子個人 ③ 南 (川北中)
女子個人 ③ 浜田 (鹿西中)

◎第35回東北日本居合道大会

6月12日 三条市総合体育館
七段優秀賞 松原 (安原)
初段・無段優秀賞 酒井、金子

個人優勝試合 六段敢闘賞 作田
同 ビットマン
五段敢闘賞 中村

◎北信越高校体育大会

6月18～19日 加賀市SC
男子団体決勝 新潟商 4―0 桜丘
女子団体決勝 新潟商 3―1 星稜
男子個人 ② 坂口 (羽咋)
女子個人優勝 森田 (星稜)



居合道 八段

河内 洋治

剣道 七段

岩脇 律子 鶴島 豊正
藤井 勝司 水上 長逸

竹中 隆文 小村 賢一

六段 敏勝 蓮田 博人

土田 太 中村 亮

剣道 六段 敏勝 蓮田 博人

打本 直哉 前 秀樹

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
E-mail:budou@po3.nsknet.or.jp

〔営業品目〕
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシモト
KIRI BRAND

金沢市上荒屋7丁目67 TEL249-8233
〒921-8065 FAX249-9139